

沖縄県立埋蔵文化財センター企画展

**発掘調査
速報移動展
2006**

in 恩納村博物館

開催期間 2006年9月9日(土) ~ 9月23日(土)

もくじ

ごあいさつ	1
平成 17 年度調査実施分布図	2
首里城跡「御内原」西地区	4
沖縄科学技術大学院大学（仮称）建設予定地	6
潮原古墓群	8
首里城跡「綾門大道跡」	10
基地内埋蔵文化財	12
御茶屋御殿跡	14
戦争遺跡（八重山諸島地区）	16
沿岸地域遺跡	18
発掘調査のきっかけ（契機）とは	20

凡例

1. 本書は、沖縄県立埋蔵文化財センターの企画展「発掘調査速報移動展 2006」を補完するものとして編集した。
2. 許可なく本書の複製および転載、複写を禁ずる。

ごあいさつ

埋蔵文化財とは、地中（水中）に埋蔵されている文化財で、沖縄県内には約 2,500 件の遺跡（埋蔵文化財）が確認されています。恩納村では、現在 22 件の埋蔵文化財が確認されています。村内には、国の史跡として、仲泊遺跡なかどまりと国頭方西海道くにがみほうせいかいどうの 2 件があります。これらは 1974 年に行われた発掘調査で、岩陰住居址と王府時代の石畳道等が発見され、仲泊遺跡は 1975（昭和 50）年 4 月 7 日に、国頭方西海道は 2004（平成 16）年 9 月 30 日に国の史跡に指定されました。この国史跡の指定により、埋蔵文化財の発掘調査や歴史の道整備事業の成果が上がり、文化財の保存と保護が行われるようになり、より充実した埋蔵文化財の公開・活用が図られています。昨年度、恩納村において、当センターが調査を行った沖縄科学技術大学院大学（仮称）建設予定地内で国頭方西海道の一部が確認され、仲泊以北における王府時代の道の存在が確認されています。それ以外に、炭焼窯や猪垣、落とし穴、古墓、遺物散布地、畑跡等の生産遺跡も確認されています。

当センターでは、埋蔵文化財の発掘調査や分布調査を実施し、調査・研究をとおして先人達が残した貴重な文化財の保護と保存、公開、活用を図っています。そこで、調査の概要や主な出土遺物を公開し、早い時期に多くの方々に見て頂きたいと考え、前年度に実施した調査の成果を展示公開する「発掘調査速報展」を毎年行っています。今年度、当センター企画展示室において開催した「発掘調査速報展 2006」では、2005（平成 17）年度に調査を実施した国営・県営首里城公園の整備に伴う首里城跡「御内原」西地区や首里城跡「綾門大道あやじょうふち跡」、御茶屋御殿跡、潮原古墓群、沖縄科学技術大学院大学（仮称）建設予定地内埋蔵文化財予備調査、基地内埋蔵文化財分布調査（普天間飛行場内）、戦争遺跡詳細分布調査（八重山地区）、沿岸地域遺跡分布調査の主な調査成果について、出土遺物や写真パネル、解説パネルで概要を紹介し、県内外から多くの方々に観覧して頂きました。

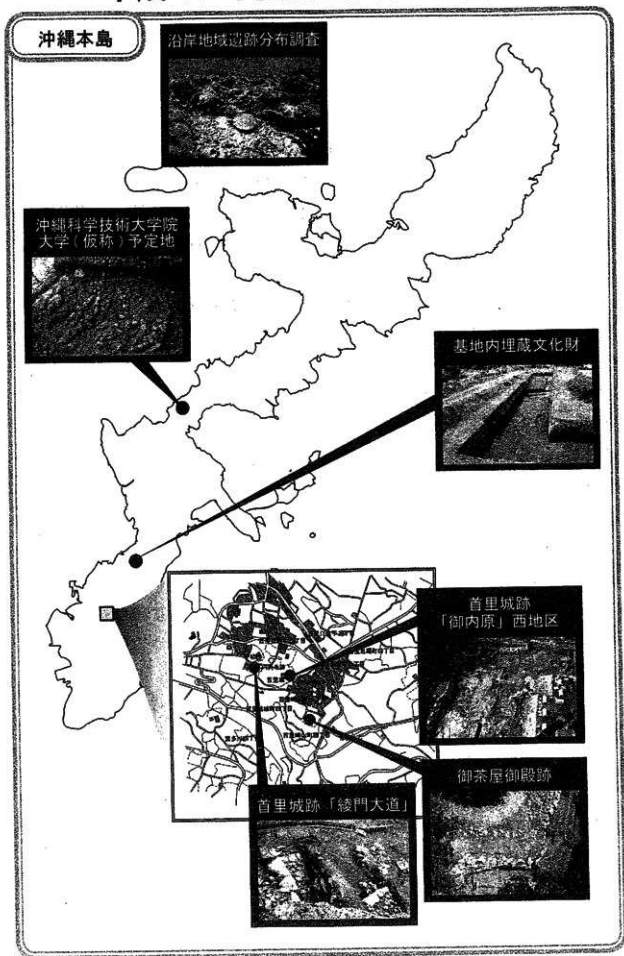
今回、この移動展をとおして、多くの方々が遺跡や遺物に接し、昔の人々の生活に思いを馳せるとともに、沖縄の歴史と文化に関する知識と、それを支える埋蔵文化財の重要性への認識を深め、沖縄県や恩納村の埋蔵文化財保護行政について、ご理解して頂ければ幸いです。最後に、本展を開催するにあたり、展示の場所と機会を提供して頂いた恩納村教育委員会や恩納村博物館の関係者の方々に感謝申し上げます。

2006（平成 18）年 9 月 9 日

沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 田場 清志

平成 17 年度調査実施分布図



八重山諸島



潮原古墓群



戦争遺跡分布調査



平成 17 年度発掘調査一覧

事業名	所在地	時代区分
首里城跡「御内原」西地区発掘調査	那覇市首里当蔵町	グスク時代 ～近代
沖縄科学技術大学院大学（仮称） 建設予定地内埋蔵文化財予備調査	恩納村南恩納・谷茶	先史時代～近代
潮原古墓群発掘調査	与那国町字潮原	近世～現代
首里城公園発掘調査 （綾門大道地区）	那覇市首里当蔵町・金城町	グスク時代 ～現代
基地内埋蔵文化財分布調査	宜野湾市（普天間飛行場内）	沖縄貝塚時代中期 ・グスク時代～近世
御茶屋御殿跡遺構確認調査	那覇市首里崎山町	近世～近代
戦争遺跡詳細分布調査	八重山諸島地区	近代
沿岸地域遺跡分布調査	沖縄県全域	グスク時代 ～近代

首里城跡「^{うち ぼる}御内原」西地区

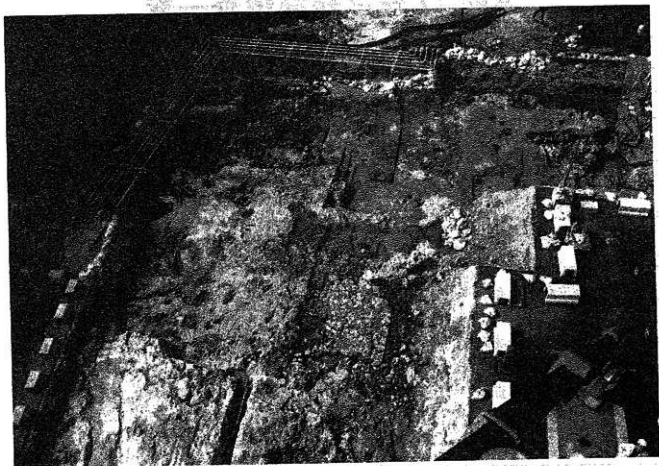
事業名：首里城跡「御内原」西地区発掘調査

所在地：那覇市首里当蔵3丁目1番

時代：グスク時代～近代

調査期間：2005(H17)年8月1日～2006(H18)年1月31日

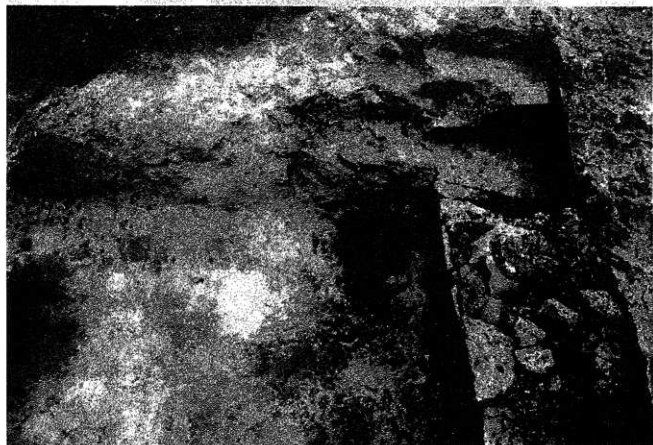
調査内容：首里城跡では史跡公園として整備するために、事前の発掘調査を毎年度実施しています。平成17年度における主な調査成果としては正殿の東側では、かつての「後之御庭」に伴う造成面を検出したほか、最下層から14世紀末の遺物包含層が確認されました。正殿の北東側、二階殿の北側では寄溝、中門、門番詰所の遺構とその下層から15世紀代の石列遺構や石囲い遺構、石積み遺構が検出されました。また17世紀から18世紀にかけての火災層も調査区の北側一帯で確認されています。



調査区北側全体



石積遺構 集石遺構



石列遺構 石段遺構

沖縄科学技術大学院大学(仮称)建設予定地

事業名：沖縄科学技術大学院大学(仮称)建設予定地内埋蔵文化財予備調査

所在地：恩納村南恩納・谷茶

時代：先史時代～近代

調査期間：2005(H17)年11月29日～2006(H18)年2月17日

調査内容：この事業は平成16年度より開始し、平成17年度までの2ヶ年間実施しました。平成16年度は124.4haの表面踏査を実施し、平成17年度は73箇所の試掘調査と補足的な表面踏査を実施しました。

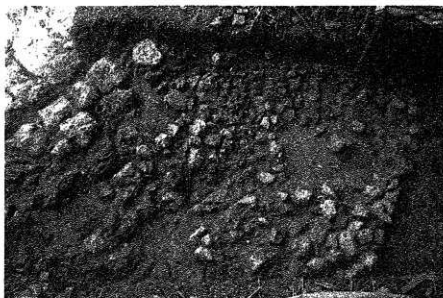
その結果、沖縄科学技術大学院大学(仮称)建設予定地内から74箇所の遺構や遺物散布地が確認されました。

主なものとして、炭焼窯、猪垣、落とし穴、畑跡等の生産遺跡や、古墓、歴史の道、遺物散布地などがあります。特に試掘調査によって確認された歴史の

道は『国頭方西海道』と呼ばれ、恩納村の仲泊周辺では国の史跡に指定されていることから、重要な成果でした。



沖縄科学技術大学院大学(仮称)建設予定地と調査範囲



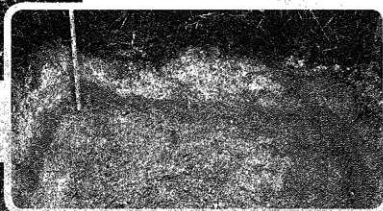
歴史の道の石敷



歴史の道と海岸



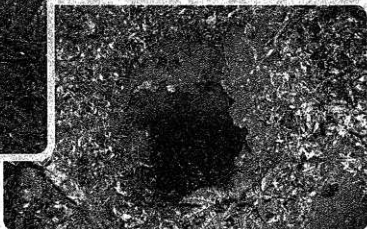
炭焼窯 (30 地点)



畝断面 (T.P7)



猪垣 (66 地点)



落とし穴 (61 地点)

すっぱるこぼぐん 潮原古墓群

事業名：与那国空港東側拡張に係る緊急調査

所在地：与那国町字潮原

時代：近世～現代

調査機関：2005（H 17）年4月11日～2005（H 17）年9月2日

調査内容：前年度に引き続き調査を行い、全部で52基の遺構を確認、調査をしました。遺構は主に墓でした。

墓は一部露出した岩盤を利用しつつ、その周囲に石を積んだり立てたりして造られています。天井の構造は、大きな板状の石をのせる場合と、石・コンクリートで固める場合があります。これらの墓室内～墓室入り口には、白い砂を敷いている状況が確認されました。他には、岩盤の岩陰を利用した墓などがあります。墓の内外からは陶磁器やキセル、かんざし、人骨、ガラス瓶などが出土しています。また、出土した遺物から見ると、沖縄産陶器が中心に出てくる墓と、近・現代の陶磁器や、ガラス瓶が中心に出てくる墓にある程度分けられ、墓の使用時期を見る上で参考になる資料となります。

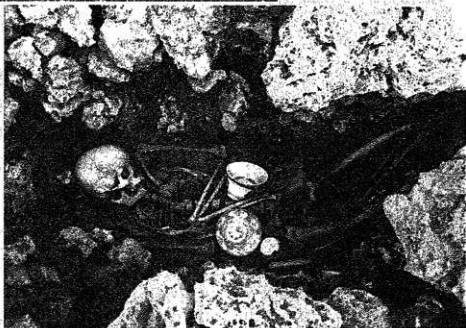


石積石室墓 (29号墓)



岩陰墓 (33号墓)

半地下式石棺墓 (5号墓)



墓室内遺物検出状況 (24号墓)

首里城跡「綾門大道跡」

事業名：首里城公園整備に伴う調査

所在地：那覇市首里当蔵町・金城町

時代：グスク時代～現代

調査期間：2005年12月1日～2006年1月31日

調査内容：琉球王国の国内第一の道路であった綾門大道は、現在の首里観音堂近くにあった中山門(1428年創建)から守礼門(1527年～1555年創建)までの区間(約

450m)を称しています。平成17年度は守礼門東南側にあった綾門大道の脇石積みと1522年に竣工・開通した真珠道の記念碑であった「真珠湊碑文」の台座跡を復元整備を行う目的で調査を行いました。その結果、沖繩戦で砲弾の直撃を受けて半壊した碑文の台座が発見されました。

台座は、床面を石畳のように敷き詰め、碑文を囲む脇石積みは、丁寧に加工された切石で積み上げていました。その他に台座近くからは綾門大道跡の脇石積みとみられる石積みも確認されています。



「真珠湊碑文」

1522(尚真46)年建立の「真珠湊碑文」は首里城守礼門東南脇の石門西側にありましたが、戦災により破壊され碑文の一部が県立博物館に保管されています。碑文の内容は真珠道と真玉橋架橋の竣工・建設などの由来を記してあります。真珠道は首里城守礼門東南脇の石門を起点に、金城・識名を経て那覇港の河口にあたる国場川に架かる真玉橋までの約4kmを一般の交通の利便性を図ることと国土防衛の要ともいえる真珠湊(那覇港・国場川河口。)を外敵から守る目的で王命により石畳道として建設されたようです。

(沖縄県教育委員会

『金石文-歴史資料調査報告書V-』1985より)



真珠澳碑文台座跡石積みと石敷きの平面観（南より）



瓦出土状況

きちないまいそうびんかざい 基地内埋蔵文化財

事業名：基地内埋蔵文化財分布調査

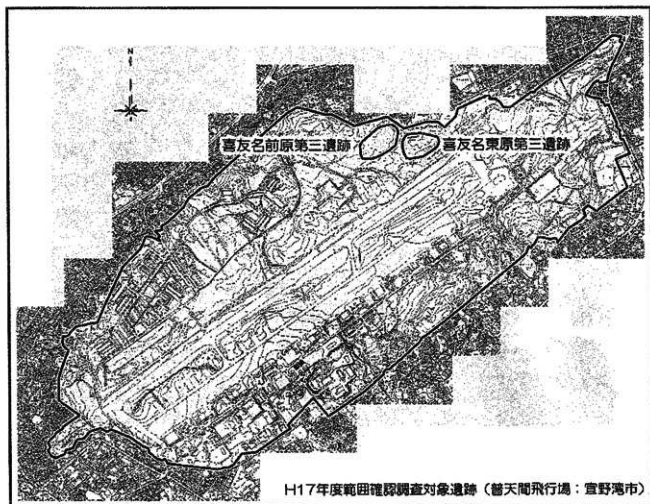
所在地：宜野湾市喜友名（普天間飛行場内）

時代：縄文時代晩期（?）、グスク時代～近世・近代

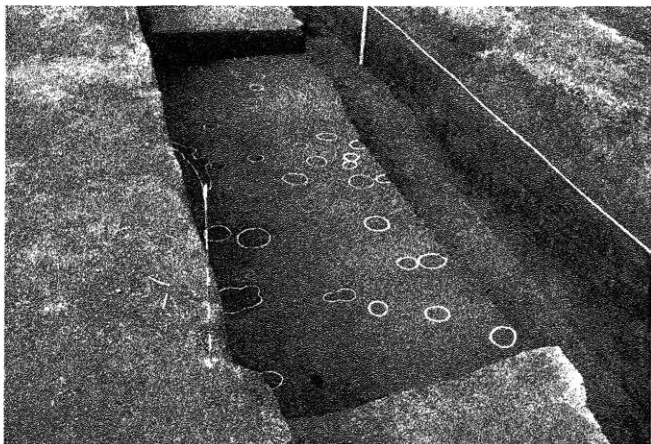
調査期間：2005（H17）年8月1日～2006（H18）年1月31日

調査内容：本調査では、平成11年度及び12年度に実施された宜野湾市普天間飛行場内にある喜友名前原第三遺跡及び喜友名東原第三遺跡の試掘調査の成果をもとに範囲確認調査を行いました。その土の特徴やわずかに確認された耕作痕と考えられる穴や溝などから、グスク時代～近世に遡る耕作地である可能性が考えられます。同飛行場内では、同様の耕作遺跡としては、17年度に調査を行った大謝名軍花原第二遺跡があります。

また、この喜友名前原第三遺跡及び喜友名東原第三遺跡の南西に近接する喜友名前原第二遺跡はグスク時代の集落跡であり、この2遺跡と何らかの関係があるかもしれません。



H17年度範囲確認調査対象遺跡（普天間飛行場：宜野湾市）



喜友名前原第三遺跡 8層下面ビット群



喜友名東原第三遺跡 ビット群

う ちゃ や う どん あと 御 茶 屋 御 殿 跡

事業名：御茶屋御殿跡遺構確認調査

所在地：那覇市首里崎山町

時代：近世～近代

調査期間：2005 (H17) 年8月1日～2005 (H17) 年8月31日

調査内容：平成17年度は、平成12年～14年に確認された茶亭の南側斜面において、石積み以降の確認を目的として調査を行いました。調査開始の時点で石積みの一部と思われる石灰岩が露出していたため、その周囲にトレンチを設定して掘り下げを行った結果、南向きに面をもった石積みが検出され、石積み直下には遺物を含まないクチャ層が確認できました。石積み遺構北側には北向きに面を持った石灰岩が東西に並んだ状態で検出されたため、石積み遺構の北側であると判断しました。遺構に伴う遺物は出土しなかったため、構築年代は不明です。



西側の石積



東側から南側の石積



東側石積



南側石積



せんそういせき (やえやましょとうちく) 戦争遺跡 (八重山諸島地区)

事業名：戦争遺跡詳細分布調査

所在地：八重山諸島地区（石垣市、竹富町、与那国町）

時代：近代

調査期間：2006（H17）年7月5日～15日

調査内容：戦争遺跡詳細分布調査は近代以降の戦争（沖縄県においては沖縄戦）と、その遂行過程の中で、戦闘や事件の加害・被害に関わって沖縄県内で形成され、かつ現在に残された構造物・遺構の分布状況を確認することを目的としています。今回の調査では、八重山諸島に属する3市町において、111遺跡が確認されました。主な調査活動として、前年度調査した際に遺漏した戦争遺跡の位置並びに実測等の補足調査を行いました。



特攻艇棧橋跡（石垣市宮良川河口）

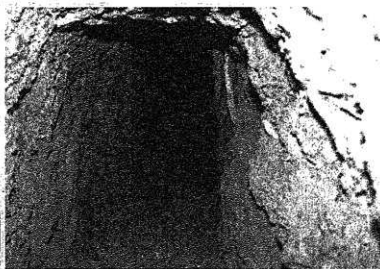


与那原の壕（石垣市白保）



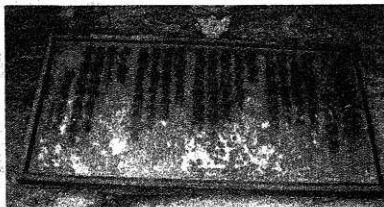
八重山神社本殿跡（石垣市於茂登）

武那田原の山頂垂直L字型壕内部
（石垣市桃里）



武那田原の山頂垂直L字型壕
（石垣市桃里）

ティンダハナ伊波南哲詩碑
（与那国町祖納）



えん がん ち いき 沿岸地域遺跡

事業名：沿岸地域遺跡分布調査

所在地：沖縄県全域

時代：グスク時代～近代

調査期間：2005（H17）年7月1日～2006（H18）年3月31日（随時）

調査内容：この事業は平成16年度より開始し、平成20年度までの5ヶ年計画で実施する予定です。平成17年度は沖縄本島周辺離島を中心に、海岸及びリーフの表面踏査を実施しました。海岸において遺物散布が確認できた場所については、海底の調査も実施しました。

調査によって、中世から近世・近代にいたる船載陶磁器や沖縄産陶器が散布する海岸や、海底における遺物散布状況、近世・近代の石切場跡や魚垣跡等が確認できました。また、正保国絵図に描かれた古港の現状が確認できました。



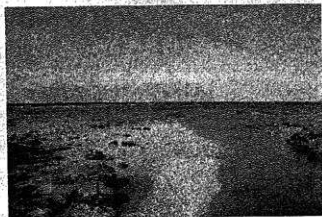
オー八島海底遺物散布状況（久米島町）



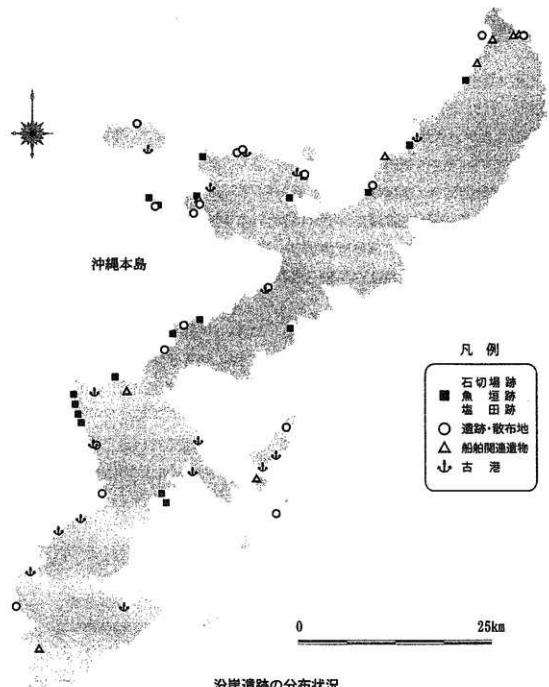
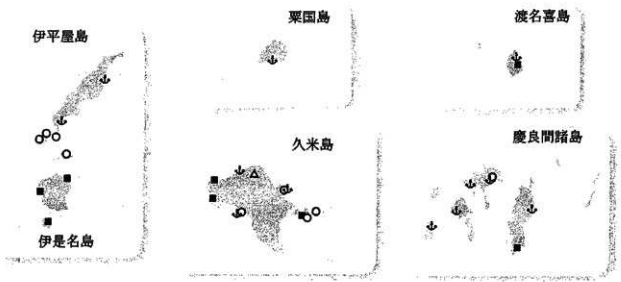
ナカの浜海底遺物散布状況（久米島町）



北原海岸石切場跡（久米島町）



真謝の古港（久米島町）



沿岸遺跡の分布状況

発掘調査のきっかけ（契機）とは

一概に発掘調査といっても、そのきっかけ（契機）や原因がいくつかあります。そもそも、遺跡などの発掘調査は考古学的手法を用いておこなうわけですが、それによって過去の人たちの生活や行動を復元し、当時の歴史や文化を明らかにしていくことを目的にしています。

大学の考古学研究室などの研究機関がおこなう発掘調査は、「学術調査」とも呼ばれ、目的意識（研究テーマ）を持って取り組みます。それに対して行政機関（当埋蔵文化財センターや市町村教育委員会など）がおこなう発掘調査は「行政発掘」と呼ばれ、その動機や原因によって大きく二つに分けることができます。

ひとつは、先人の残した貴重な文化的遺産である遺跡（埋蔵文化財）を後世に伝えるため現地保存を目的とした確認調査があります。具体的には、国や県・市町村指定の史跡（文化財指定を受けた遺跡）の保存・活用を目的とした史跡整備に伴う遺構確認調査、保存を目的に遺跡の範囲や性格などを明らかにする遺跡範囲確認調査がそれに相当します。

もうひとつは、道路工事や土地改良の諸開発に伴う記録保存を目的とした発掘調査で、開発のために消滅する遺跡を事前に発掘調査し、綿密な記録作成をおこないます。

このように、発掘調査にも様々なケースがありますが、いずれの場合も遺跡にメスを入れることには変わりがありません。発掘調査が行われた遺跡は二度と元に戻らないわけですから、より慎重な発掘調査をおこなう必要があります。

現在、県内では当埋蔵文化財センターや市町村教育委員会、大学の考古学研究室などが実施している発掘調査が毎年数十件ありますので、機会があれば発掘調査現場に足を運んでみてください。

県内の発掘調査情報に関しては以下にお問い合わせください

- | | | |
|----------------|------|------------------|
| ○沖縄県立埋蔵文化財センター | 調査課 | TEL 098-835-8752 |
| ○沖縄県教育庁文化課 | 記念物係 | TEL 098-866-2731 |

平成 18 年度発掘調査等予定一覧

遺跡名・調査名	調査目的・原因	調査予定時期
首里城公園（守礼門北東側）発掘調査	首里城公園整備に伴う調査	7～9月
新石垣空港予定地内遺跡発掘調査	新石垣空港建設に伴う発掘調査	8～1月
基地内埋蔵文化財分布調査	基地内埋蔵文化財分布状況の確認調査	8～1月
先島古集落遺跡確認調査	古集落遺跡確認調査	12～1月
具志川島岩立遺跡発掘調査	自然崩壊に伴う発掘調査	9月
アンチの上貝塚発掘調査	個人住宅建設に伴う発掘調査	7～8月
首里城跡発掘調査（外郭北東地区）	首里城跡整備に伴う調査	9～1月



019.9194
21

平成 18 年度企画展
「発掘調査速報移動展 2006」
2006（平成 18）年 9 月 9 日

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター
住所 沖縄県中頭郡西原町上原 193-7
電話 098-835-8752
FAX 098-835-8754

恩納村博物館

〒904-0415

沖縄県国頭郡恩納村字仲泊 1656-8

TEL 098-982-5112

○開館時間

●午前 9:00～午後 5:00 (入館は午後 4:30 まで)

○開催期間中の休館日

●9月11日(月)、19日(火)

○料 金

恩納村博物館の観覧料が必要です(常設展込み)

●小学生・中学生・高校生 30円 (15名以上 20円)

●大学生・専門学校生 50円 (15名以上 30円)

●一般 100円 (15名以上 70円)

主催：沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7 TEL 098-835-8752 FAX 098-835-8754

共催：恩納村教育委員会